

資料紹介

新規寄託資料紹介《木造菩薩立像》

今年度から博物館に寄託された仏さまをご紹介します。

頭に冠を着け、数枚の衣をまとう姿から菩薩像と考えられます。菩薩は悟りを開いて如来になる前のブツダの姿を表すもので、人々の苦しみを救い、願いを叶える存在とされています。クスノキと思われる広葉樹材から頭と体を彫り出し、中を割り抜かない古風な作りをしています。体にウロを残しているのは、御神木などの大事な木を使っているからかもしれません。

この仏さまの特徴は、背中に文字が彫られていることです。熊本市内で文字を残す仏像はとても珍しく、貴重です。大永2年(1522)に「祐亀」というお坊さんが発起人となり、20人もの信者とともに仏像を造ったことが書かれています。

お堂の老朽化により地域での保護が難しくなったため、夏に燻蒸(虫やカビを除去する処置)を終え、お掃除と撮影をして寄託となりました。仏像をはじめとする文化財は本来、その歴史を保有する伝来地で守っていくことが望ましいですが、施設の老朽化や高齢化により困難となる地域も増えてきています。元のお場所にお戻しできる日が来るまで、博物館で大切にお守りしていきたいと思います。

(美術工芸担当:村上)



活動紹介

「地質情報展2025くまもと」応援プロジェクト

8月2日(土)、3日(日)、当館の講堂で標記のイベントが行われました。これは、9月に熊本城ホールで行われた産総研・日本地質学会主催「地質情報展2025くまもと」のプレイベントとして行われたものです。全5ブースとも大賑わいで、2日間で約1,000名の参加がありました。

講堂に入ると、来場者はまず、床に貼られた巨大な九州の地質図に足を止め、興味深そうに眺めていました。中には、専門スタッフに自宅周辺の地盤の固さや活断層の有無など日頃の関心事について、突っ込んだ質問をされる方もおられました。また、現生有孔虫の殻である「星砂」を実体顕微鏡で観察するブースでは、有孔虫の形の美しさは勿論、名前の由来である表面の無数の穴にも感嘆の声が上がりました。(お土産として星砂を敷き詰めた台紙を持ち帰ることができ、皆大喜びでした。)さらに、太古の有孔虫で、「示準化石」として教科書にも登場する「フズリナ」(古生代)や「貨幣石」(古第三紀)をルーペで観察するコーナーもあり、来場者は教科書から飛び出した「実物」との初めての対面に、「進化」の神秘を味わっていたようです。いろいろな体験を通して「地質」を身近に感じる事ができた2日間だったと思います。(地質担当:西田)

2025年8月2日(土)～3日(日)



床貼りの地質図を眺めながら質問する来場者



星砂(現生有孔虫の殻)

くまはく NEWS LETTER

Vol.15

八雲とセツ 家族の物語

八雲とセツ
家族の物語



小泉家提供

- 特別展案内
冬季特別展「八雲とセツ 家族の物語」
- 特別展報告
夏季特別展「江戸の遊び絵づくし 粋でゆかいな浮世絵ワールド」
- 企画展報告
「送る一熊本県下の精霊流し」
- イベント報告
はじめてのわくわくプラネタリウム
こども学び教室・自然観察会(俵山)
- 活動報告
博物館実習
- 資料紹介
新規寄託資料紹介《木造菩薩立像》
- 活動紹介
「地質情報展2025くまもと」応援プロジェクト

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2025年11月

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol.15
発行 熊本博物館
〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX.096-351-4257
<https://kumamoto-city-museum.jp>



特別展案内

冬季特別展
「八雲とセツ 家族の物語」

2025年12月2日(火)～2026年2月15日(日)

明治24年(1891)、小泉八雲が熊本に来ました。八雲は松江で1年を過ごしたのち、熊本で第五高等学校の英語教師として3年間暮らしました。

本展では文豪小泉八雲の作品だけでなく、彼の創作活動を支えた妻・セツとその家族の物語を紹介します。

(民俗担当:湯川)



特別展報告

夏季特別展 「江戸の遊び絵づくし
粋でゆかいな浮世絵ワールド」

2025年7月12日(土)～8月31日(日)

7月12日(土)から8月31日(日)まで、特別展「江戸の遊び絵づくし 粋でゆかいな浮世絵ワールド」を開催しました(開館45日間)。江戸の人びとが楽しんだ、洒落とユーモアいっぱいの浮世絵をテーマとした展覧会です。歌川国芳らの「寄せ絵」をはじめ、大人も子どもも楽しめる浮世絵作品を150点ほど展示しました。夏休み期間ということもあって、ご家族連れでのご観覧が大変多かったです。九州初開催となった本展覧会ですが、熊本博物館が最終巡回先となりました。ご観覧いただいたみなさま、誠にありがとうございました!

(歴史担当:木山)



企画展報告

企画展 「送る一熊本県下の精霊流し」

2025年3月25日(火)～6月1日(日)

本展覧会は、あしかけ3年に及ぶ県内精霊流しの調査成果をもとにしたものです。熊本県では盆行事の一部である精霊流しが明治から大正、昭和にかけて花火や演芸などを伴う大規模な催しとして行われていました。かつて県内各地で行われていたこうした行事も、現在その伝承は途絶えつつあります。本展覧会ではそうした県内精霊流しの変遷と現状を紹介し、会期中1万7千人ほどの来館者がありました。展覧会図録は会期2か月後には完売し、学術的な成果として論文を査読誌に1本掲載しています。

(民俗担当:湯川)



イベント報告

はじめてのわくわくプラネタリウム

2025年5月30日(金)～6月1日(日)

プラネタリウムでは今年で3回目の開催となる、赤ちゃん連れのお客様向けプログラム『はじめてのわくわくプラネタリウム』を実施しました。

途中、赤ちゃんたちの泣き声合戦となる場面もありましたが、会場全体があたたかい笑い声に包まれて、赤ちゃんたちの素敵なプラネタリウムデビュー★となりました。

(プラネタリウム:楓)



こども学び教室・自然観察会(俵山)

2025年9月28日(日)

ススキが広がる秋の草原で草花や昆虫を観察しよう!のテーマで計画した今回の自然観察会。当日の天気は曇り時々雨…現地はなんと霧で真っ白!そんな中でもハートを背負ったエサキモンキツノカメムシ発見!からスタートし、サンショウの香りを確認したり、シカの鳴き声&フンを見つけたり、ゲンノショウコやヤマハッカ、噛まれると痛いカヤキリなど、季節の生きものをたくさん見つけながら、阿蘇の地層に関する解説もありの盛りだくさんの観察会となりました。参加者の皆さんは服や靴がどろんこになりながらも、逞しく楽しんでくださっていたようです。次回も楽しいフィールドを見つけて開催予定です。

(植物担当:山口)



活動報告

博物館実習

2025年8月20日(水)～25日(月)

学芸員資格取得を目指す大学生を対象として、毎年8月下旬に博物館実習の受け入れを行っております。今年度は人文系5名、自然系6名の11名が6日間の実習に取り組みました。

実習期間中は、各専門分野に合わせて当館学芸員が講義を担当し、資料を扱う上での注意点や保存方法などを説明しました。実際の資料状態を見ながらの実習ということもあり、より実践的な体験や知識が得られたのではないかと思います。

最終日にはグループごとに課題発表を行い、展覧会基本計画や季節の展示、キャプション作成など、さまざまな課題作成をしていただきました。6日間という短い期間でしたが、実習生のみなさまお疲れ様でした。引き続き、学芸員資格取得をめざして頑張ってください!

(保存科学担当:坂本)

